

モニタリング結果報告書 (平成29年度)

1. 施設概要

施設名	県民ホール（本館・神奈川芸術劇場）、音楽堂		
所在地	県民ホール本館：横浜市中区山下町3-1 神奈川芸術劇場：横浜市中区山下町281 音楽堂：横浜西区紅葉ヶ丘9-2		
サイトURL	県民ホール本館： http://www.kanagawa-kenminhall.com/ 神奈川芸術劇場： http://www.kaat.jp/ 音楽堂： http://www.kanagawa-ongakudo.com/		
根拠条例	県民ホール本館：神奈川県立県民ホール条例 神奈川芸術劇場：同上 音楽堂：神奈川県立音楽堂条例		
設置目的(設置時期)	県民ホール本館：県民の文化芸術の振興及び福祉の増進を図るため（昭和50年1月） 神奈川芸術劇場：同上（平成23年1月） 音楽堂：県民の音楽芸術の振興及び福祉の増進を図るため（昭和29年11月）		
指定管理者名	公益財団法人神奈川芸術文化財団		
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	施設所管課	文化課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>(一体としてのコメント)</p> <p>平成29年度実績では、3館合同プロジェクトとして、オープンシアター2017や芸術監督プロジェクトを実施するなど、提案書に基づき神奈川県立県民ホール本館、芸術劇場及び音楽堂の3館一体による運営が行われている。また、平成29年度は、県民ホール本館が平成29年7月から平成30年3月までの9か月間、大規模改修工事に伴う休館となったが、3館ともに利用者数は目標値を達成している。なお、3項目評価は、県民ホールがS評価、音楽堂がA評価となったため、S評価となった。</p> <p>■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について</p> <p>平成29年度は、県民ホール本館が改修工事に伴う長期休館となったが、提案に基づき適切に管理運営が行われている。また、施設の利用者数は、本館・芸術劇場ともに目標値を達成しており、利用者アンケートで不満と評価した意見もない。事故・不祥事等については数件見受けられたが、県への報告が迅速に行われ、その後記者発表を行うなど、業務については適切に行われている。利用状況及び利用者の満足度がS評価評価となったことから、3項目評価はS評価となった。今後も、引き続き適切な管理運営に努めていく。</p> <p>■音楽堂について</p> <p>平成29年度実績では、提案に基づいた管理運営が行われており、施設稼働率が9割以上と高い水準で、来館者数も約18万4千人と目標値を大きく上回った。利用者アンケートの結果は、不満と評価した意見もなく、大きな事故や不祥事も発生しておらず、業務は適切に行われている。利用状況はS評価、利用者の満足度は及び収支状況はA評価となったことから3項目評価はA評価となった。音楽堂は開館から63年が経過し、施設の老朽化に伴い様々な問題が発生していたが、平成30年度に大規模な改修工事を実施することにより対応する。今後も引き続き、適切な管理運営に努めていく。</p> <p><各項目の詳細説明></p> <p>■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について</p> <p>◆管理運営等の状況</p> <p>平成29年度は、平成28年度に引き続き県民ホール本館、芸術劇場及び音楽堂と連携した3館一体の事業として、5月にはオープンシアター2017、1月には芸術監督プロジェクトを実施した。</p> <p>◆利用状況</p> <p>県民ホール本館は改修工事に伴う長期休館の影響により目標値が163,250人となっており、利用者数目標達成率は122.6%であった。また、芸術劇場も開館から7年目となり、利用者数は目標達成率140.1%、前年対比では122.9%となり、2館合計では目標値354,250人に対して、467,831人となり、目標達成率が132%となったためS評価とした。</p> <p>◆利用者の満足度</p> <p>本館は6～7月、芸術劇場は12月にそれぞれ実施し、2館の合計で、上位2段階の回答割合が100%となったためS評価とした。回収率は32.4%となった。回収率については前年度の回収率57.1%から下落しているため、利用者に幅広く回答してもらえるよう使用申込時にアンケートを直接手渡すなどの対応を継続し、回収率の向上に努める必要がある。</p> <p>◆収支状況</p> <p>芸術劇場は当初予算比99.8%となったが、県民ホール本館は当初予算比106.33%と好調であり、2館を合わせた収支比率は102.17%となったため、A評価とした。</p>

◆苦情・要望等

県民ホール本館では、例年同様にエスカレーターやエレベーター等、バリアフリーに関するハード面での意見が寄せられているが、上階席への移動が困難な方や高齢者に対して対応策を講じており、積極的な対応を行っている。

◆事故・不祥事等

県民ホール本館では平成29年5月に行われた神奈川県美術展において出品料の徴収不足があり、芸術劇場では平成30年1月に個人情報漏えいがあった。ともに指定管理者から県への迅速な連絡があった後に記者発表を行っており、今後は再発防止に取り組む。

■音楽堂について

◆管理運営等の状況

提案に基づき、文化事業では県民に開かれた音楽芸術活動及び鑑賞の拠点として、木のホールの音響と空間を活用した公演として、世界からトップクラスの演奏家を迎える「音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ」は10年目に達し、「ナタリー・シュトゥッツマン」、「ハーゲン・クアルテット」等を実施した。また、古楽にも継続して取り組んでいる音楽堂の特性を生かし、「モンテヴェルディ生誕450年記念特別講演」と題して、「聖母マリアの夕べの祈り」とオペラ「ボッペアの戴冠」の2つの公演を上演した。さらに、伝統音楽シリーズとしては、明恵上人をテーマに若手作曲家による新作と古典で構成された新作聲明「月の光言」を制作上演した。子ども・青少年への音楽体験では、昨年に引き続き、気鋭の指揮者三ツ橋敬子を迎えた「夏休みオーケストラ」や特別支援学校や小学校等へのアウトリーチ公演、さらに50回を超える長寿公演の「メサイア全曲演奏会」では、「未来プロジェクト」を継続し、高校生とシニア層の世代を超えた交流による合唱を開催するなど、様々な体験機会の提供に努めた。

施設管理面では、施設・設備の老朽化に伴う対応が課題となっている中で、利用者の安全を第一に、保守点検、修繕や工事を行う等、予防保全に努めるとともに、休館を伴う大規模な改修工事を平成30年度に実施するための調整等に努めた。また、利用者のニーズに対応するため、休館日の臨時開館や、利用時間の延長など利便性に配慮した柔軟な対応、託児サービスや仮設授乳室などを設置し、若い世代の来館に繋がるよう、きめ細やかな対応を行った。

◆利用状況

昨年度に引き続き、メディアを活用した広報を実施した結果、利用者数は目標達成率111.3%となりS評価となった。また、昨年度との対比では、利用者数は若干増加し+6%となった。

◆利用者の満足度

平成29年12月に施設を貸館利用した19団体にアンケートを依頼し、そのうち8団体から回答を得た結果、上位2段階の回答が87.5%あったためA評価となった。アンケートの実施にあたっては、幅広く回答してもらえるよう、アンケート用紙を使用申込時に直接手渡すなど工夫を行っているが、回収率は前年同様であり、今後はより一層丁寧な対応に努めていただき、回収率の向上に努めていただきたい。

◆収支状況

収支の状況は、年間を通じてほぼ計画通り執行されており、収支比率が101.8%なので、A評価となった。

◆苦情・要望等

指定管理者に起因する要望において、事業において、客席照明が暗いので歌詞が読みにくいという意見があった。

◆事故・不祥事等

指定管理者に起因する事故等はなかった。

◆労働環境の確保に係る取組状況

指摘・指導等はなく、業務は適切に行われている。

3項目評価		
	<参考> 県民ホール	<参考> 音楽堂
S	S	A

S：極めて良好
A：良好
B：一部改善が必要
C：抜本的な改善が必要
※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう

〈神奈川県立県民ホールについて〉

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月3～4回	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1. 一体運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3館の役割、機能を踏まえて、各施設を運営する。 ・音楽分野と演劇分野、それぞれに芸術監督を置き、その指導のもと神奈川からの芸術文化の創造・発信を強化する。 ・県や関係機関と一体となって東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムを推進する。また、子ども・青少年に次世代へ文化芸術の豊かさや多様性を伝えていく。 ・3館一体で効率的かつ効果的な施設運営を行い、利用者サービスの改善と、利用率の維持・向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民ホール、芸術劇場及び音楽堂の3館一体運営を象徴する合同プロジェクトとして、一柳慧（神奈川芸術文化財団芸術総監督）と白井晃（芸術劇場芸術監督）が主導・監修する「芸術監督プロジェクト」と「オープンシアター」を実施し、各館の特徴を生かした事業展開で県民に向けた文化芸術の普及啓発や新しい芸術との出会いを提示した。 ・「芸術監督プロジェクト」は、県立音楽堂を会場として開催し、絹糸等による音響装置と映像作品でホール空間を満たした斬新な芸術表現を実現した。 ・「オープンシアター」は、鑑賞機会の拡大や参加型企画を中心にすえた3館の企画となった。＜計4事業／5演目（9公演）・9企画（23回）・1展覧会（入場者数8,786人）＞ ・新規の取組みとして、3館別々に、人材育成事業としてのワークショップ、教育普及事業としてのアウトリーチ、鑑賞普及事業の関連企画としてのプレレクチャー等、個々の取組みとして分散していた情報を一元化できるポータルページを財団HPに設置した。 ・3館共通の広報営業業務として、情報誌「神奈川芸術プレス」を発行し、県民ホール、芸術劇場及び音楽堂の公演情報、アーティスト情報などを取り上げるとともに、県域の文化情報を紹介した。また、インターネットを活用した情報提供としてホームページ・SNSの運営も行った。 	
<p>2. 適切な管理運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料収入増及び経費の節減に努めるとともに、サービスの向上に取り組むなど適切な管理運営に努める。 ・また、防犯、防災対策、安全対策にも取り組んでいく。 	<p>＜実施状況＞</p> <p>【利用料収入増及び経費の節減の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月3日から平成30年3月31日まで電気設備改修工事による全館休館となった（大ホールは舞台改修工事のため、平成30年5月31日まで休館）。平成30年4月からの開館にあたり、利用者に対して確実な周知を行い、事前の説明会も実施し、休館明けの利用の確保に努めた。（本館） ・ホール利用では、1週間を越える長期貸館利用やロングラン公演等の積極的な誘致を行い、利用料収入の増に努めた。（芸術劇場） ・照明のLED化に継続して取り組み、環境対策を行うとともに、経費の削減を図った。（芸術劇場） ・施設の維持管理において、主要な委託業務、清掃、受付案内、駐車場管理、保安警備、各種保守点検の業務を共通の業者に委託するなど、業務効率化を図った。一体的に運用することで効率化に努めるとともに、利用状況に細かく応じた設備点検計画を作成するなど、効率的な業務実施体制を整備した。（本館、芸術劇場） 	

	<p>【サービス向上への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用時間や南口玄関開館時間の柔軟な運用、利用問合せ専用メールの受付など利用者サービスの向上を図った。(本館) ・利用実績と利用者からの要望等を参考に、柔軟な対応や調整作業を行い、利用者の満足の上向上に努めた。(芸術劇場) ・「バリアフリーの推進」については、ユニバーサルデザインも観点に取り入れた平成32年までの長期計画を策定した。一部について、施設の開館時の完成を目指し、調査研究を行い、主に大ホールの客席、情報提供のバリアフリー、ユニバーサルデザイン化を中心に実施に向けて作業を進めた。 ・大ホール上階席へ階段での移動が困難な方に対して職員用エレベーターに専用案内係を配置しての対応を継続的に行った。(本館) ・合同施設の管理組合構成員であるNHK横浜放送局及び県と定期協議の場を設け、アトリウムを開放して行うイベントやNHK横浜放送局主催のジャズライブ等、アトリウムでの催し物の調整等を図った。 ・委託先との定期的なミーティングにより情報共有を図りながら施設の利用状況に応じた設備点検や清掃などを行い、受付案内業務についても客席案内スタッフ定期モニタリングを実施し、来館者へのサービス向上、業務内容改善に取り組んだ。(本館、芸術劇場) ・年間で必要な設備点検の日程を利用状況に応じ調整し、利用希望者の日程を確保するなど、柔軟な利用調整に努めた。(本館、芸術劇場) ・来館者、利用者アンケートを常時実施、ホームページ上での「お問い合わせ」コーナーの設置等、要望やクレームに細やかかつ迅速に対応し、苦情原因の是正及びその予防に努めている。(本館、芸術劇場) ・子育て世代の来館機会が増えるよう、多くの主催公演において託児サービスを実施し、幼児向けのイベント等では、仮設授乳室の設置も行っている。(本館、芸術劇場) 	
	<p>【防犯、防災対策、安全対策への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者の進入防止や事故防止に備え、防犯カメラによる確認や、夜間の警備員巡回、職員及び委託業者等を含めたスタッフの連携確認等を強化し、24時間体制の防犯対策に取り組んだ。(本館、芸術劇場) ・様々な災害を想定した防災訓練を複数回実施したほか、「災害対応マニュアル」の見直し・点検を行い、防火防災対策に強化して取り組んだ。(本館、芸術劇場) ・事前打ち合わせ、当日打ち合わせ等において、施設職員と主催者による公演中における避難誘導體制の確認を徹底し、有事における来館者の安全確保に取り組んだ。また、舞台技術スタッフの指導により、舞台上の安全確保にも利用者と連携して取り組んだ。(本館、芸術劇場) ・躯体のコンクリートのコア抜きによる強度チェック、及び天井耐震診断を実施した。(本館) ・平成28年度から開始した「劇場運営マネージメントプロフェッショナル人材養成講座」を継続し、危機管理体制や施設のユニバーサルデザイン化について県内の施設運営担当者同士が集い、学び、県内文化施設全体のレベルアップを図った。(県民ホール・人材育成事業として実施)。 	
<p>3. 自主的な企画事業について 【県民ホール】 ●芸術文化創造振興事業</p> <p>1 大ホール事業 ○本格的な舞台機構を有する大劇場として、オペラ・バレエ、大規模オーケストラ作品、合唱作品等を対象に、国内トップレベルの大型舞台芸術作品を、自主制作や共同制作、共催など様々な枠組みにより提供する。 ○平成29年7月3日から平成30年3月31日まで(大ホールは5月31日まで)の改修休館に対応した事業計画を立案。休館期間中は鑑賞機会の少ない地域において、芸術文化を体験する機会を提供し、将来の顧客創造にもつながる事業を実施する。</p>	<p>○ファンタスティック・ガラ2017 in summerでは、日本を代表する演奏家と神奈川フィルの名演に加え、若手アーティスト育成目的で現役大学生の起用した。さらに神奈川県と東京都で活動する児童合唱団に一流のアーティストとの共演機会を提供した。 ○神奈川県民ホール巡回事業である神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2018オペラ『魔笛』は、県内のよこすか芸術劇場と相模女子大学グリーンホールの2劇場で開催。本格的なオペラの鑑賞ニーズに応えた。関連企画では、周辺地域において「魔笛コンサート」、オペラ講座実施し、地域との共働した文化振興に努めた。</p>	

<p>2. 小ホール事業 ○日本の公共ホールで最初に設置されたオルガンを活用した事業や、舞台芸術に関する講座を実施するほか、実験性の高い先鋭的な企画を実施し、近隣の類似音楽ホールとの差別化を図った事業を展開する。</p>	<p>ユリシイズ弦楽四重奏団では新旧のアメリカを代表する作曲家の作品（日本初演を含む。）による1時間弱のコンサートと、アーティストと観客の交流を図るディスカッションを実施した。共催では近隣ホールと連携したオルガン体験ツアー、オルガンリサイタルなどパイプオルガンを生かした公演を行った。</p>	
<p>3. ギャラリー事業 ○県との共催で「神奈川県美術展」を開催。 気鋭の現代美術作家の個展、または若手作家のグループ展を開催することで、優れた現代美術の紹介に努める。 また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年であると同時に、ヨコハマトリエンナーレの開催年でもあるため、横浜美術館や関係機関と連携した取り組みを実施する。</p>	<p>○ギャラリーでは全国公募による「神奈川県美術展」のほか、改修休館のため、例年はギャラリー展示室で行っている企画展を、横浜トリエンナーレの会期にあわせて、屋外広場でのアートパフォーマンスイベントとして開催。同トリエンナーレ応援プログラムとして横浜市と連携することで、広報面やボランティアスタッフ募集告知においても協力を得た。</p> <p>【主催事業】 (ホール事業) [4事業/7演目8公演・3企画3回 入場者数5,635人] (ギャラリー事業) [2事業/1企画2回・2展覧会 入場者数8,679人] 【共催事業】 ホール [5事業/7演目7公演・1企画1回 入場者数3,803人] ギャラリー [2事業/4企画4回・2展覧会 入場者数2,413人]</p>	
<p>●芸術文化鑑賞普及事業 県民の芸術文化に対する関心、理解をさらに深め、新しい芸術文化の世界を紹介することを目的にオルガン・プロムナードコンサート、オープンシアター、ワンコイン・コンサート、舞台芸術講座を実施する。</p>	<p>○県民の芸術文化に対する関心、理解を深めること等を目的に、3館合同による「オープンシアター」、気軽な鑑賞を誘う無料コンサートやワンコインコンサート、知識をより深める舞台芸術講座等を実施した。</p> <p>【主催事業】 [6事業/5演目8公演・6企画19回 入場者数7,188人]</p>	
<p>●人材育成事業 県民ホールとして人材育成事業と大学連携事業に本格的に取り組む。人材育成事業としては、演奏家育成、劇場運営マネジメント人材育成、劇場インターン（公演制作）の3本柱で各分野のプロフェッショナルの育成を目指す。大学連携事業としては、プロフェッショナル演奏家を目指す優秀な学生を対象に、一流の現場、講師による人材養成プログラムを実施する。</p>	<p>劇場運営講座については、二年目を迎え、県内各施設の連携も生まれ、人材の育成と業務内容の向上に貢献した。大学連携事業では、東京藝術大学、洗足学園音楽大学と連携し、学生を対象としたプログラムを実施した。 [2事業/9企画17回 参加者数279人]</p>	
<p>【芸術劇場】 ●芸術創造事業 芸術監督の芸術方針と指導の下で、①芸術監督自ら企画・演出・出演する公演等、②国内外のトップレベルの演出家等による演劇、ダンス等の公演、③日本の舞台芸術の最前線を様々な切り口で紹介する公演、④日本の伝統芸能の公演など、創造型劇場ならではの高度な舞台機能と企画制作力を活かして情報発信性の高い公演を実施する。</p>	<p>①白井芸術監督演出によるヴァージニア・ウルフ原作の時空を超えた物語『オーランドー』。高い演技力をもつ出演者に恵まれ、文芸作品にも関わらず、集客も毎回満席に近い数字となった。 ②『作者を探す六人の登場人物』は、古典の再生という芸術監督の掲げるテーマを気鋭の演出家長塚圭史が現代に蘇らせ、バラエティに富んだ出演者による不条理な世界が表現された。 ③『ワグナープロジェクト』は、演劇の枠にとらわれない表現を模索する演出家高山明によるプロジェクトであり、無名のラッパーを集め、劇場をストリートにする試み。様々なワークショップを実施し、劇場の新たな可能性を感じさせる催しとなった。 ④女性による義太夫語りの第一人者による竹本駒之助公演第九弾公演。この間、駒之助氏は芸術選奨、文化功労者の受賞するなど、古典芸能の再発見に寄与した。</p> <p>【主催事業】 [15事業/18演目134公演・1企画 1回 入場者数39,465人] 【提携公演】 [10事業/11演目100公演・1企画4回 入場者数29,659人]</p>	

<p>●国際芸術交流創造事業 開館以来、国際交流基金、横浜市等と共同で実施している「国際舞台芸術交流ミーティング (TPAM)」を継続して実施するとともに、海外の芸術家等との国際共同制作に取り組み、これらの活動の集大成として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて国際的な舞台芸術フェスティバルを開催する。</p>	<p>例年2月に実施しているTPAMでは、芸術劇場でアジアの先進的な作品を紹介することができ、催し物が世界各地のプロデューサーと出会い、次の上演につながるきっかけとなっている。 [1事業/4演目9公演・4企画67回 入場者数3,426人]</p>	
<p>●県民創造支援事業 地域の文化芸術の拠点施設としての役割を踏まえ、県が文化施策として推進するマグカル事業に対して会場提供等の協力を行うとともに、県内で活動する劇団等の作品づくりを劇場の制作・技術スタッフがサポートすることにより、県民の芸術創造活動の水準向上と活性化を図る。</p>	<p>・神奈川県マグカル事業の一つである『第3回 神奈川かもめ短編演劇祭』は、国内、海外の劇団が一堂に会するイベントであり、技術的な支援などを通じて、イベントの質を向上することに努めた。 ・「KAAT×マグカル・フェスティバル実行委員会Lune Production『A O SHOW』」は、神奈川県と関係の深いベトナムのサーカス集団を招聘し公演を実施。上演の実施を受託することで、神奈川県の文化施策、国際制作に寄与できた。 共催公演 [2事業/2演目11公演 入場者数1,051人] 神奈川芸術劇場受託事業等 [2事業/2演目7公演 入場者数2,564人]</p>	
<p>●芸術文化普及・人材育成事業 神奈川の舞台芸術の活性化には、芸術創造に関わるプロフェッショナルな人材が不可欠である一方、演劇、舞踊等に高い関心を持ち、日常的に公演に足を運ぶ観客を増やしていくことが必要ことから、創造型劇場としてのノウハウを生かして、専門的な能力をもつ人材の育成や舞台芸術の普及等に取り組む。</p>	<p>KAATキッズ・プログラム2017「不思議の国のアリス」は、コンテンポラリーダンスという表現を使いながら、名作の世界を表現した。ダンスと演劇と音楽の融合が子供たちのみならず、多くの大人を魅了し、新しい舞踊劇の世界を切り開く作品となった。 [5事業/4演目28公演・7企画15回・1展覧会 入場者数11,967人]</p>	
<p>●地域等連携事業 地域の拠点施設として県全域の文化芸術の振興を図るため、地域の公立文化施設等と連携した巡回公演等を行います。また、横浜市内の文化団体が主体となって実施する文化イベントや、近隣商店街による地域活性化イベントに対し積極的に参画、協力し、文化芸術を通じた地域の賑わいづくりに貢献する。</p>	<p>・「親子のためのファミリー・ミュージカルピノキオ～または白雪姫の悲劇」は、芸術劇場での上演後、大和市やま芸術文化ホールシリウスでも上演した。芸術劇場で自主制作した作品を県内の他ホールが買い取り、今後もソフトウェアの供給を望まれている。 ・野毛大道芸に参加し、協賛するとともに、ブースを出し、催し物の宣伝、チラシ配布、招待券の福引等を行い、情報提供を行った。 企画制作事業 [1事業/5演目59公演・1企画5回 入場者数36,320人]</p>	
<p>4. 事業の収支バランスの安定を図る取組み ・指定管理料以外の収入確保の取組みを図る。</p>	<p>広報宣伝・営業、チケット販売等の強化により事業収入の確保に努めるとともに、外部資金の獲得にも努め、収支バランスの安定を図った。 【平成29年度獲得実績】 文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」 《特別支援事業》 1件 56,000千円 《共同制作支援事業、ネットワーク構築支援事業》 1件 4,100千円 日本芸術文化振興基金 《地域文化施設公演・展示活動》 1件 1,313千円 地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」 3件 20,406千円 その他民間助成団体 1件 800千円 合計 82,619千円</p>	

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュサービス	自主事業公演などの開催時に、劇場サービスとしてホール内ビュッフェやロビー等で飲食物販売を行った。

5. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※県民ホール	653,996	702,181	200,164
利用者数※芸術劇場	199,212	217,833	267,667
対前年度比県民ホール		107.4%	28.5%
対前年度比 芸術劇場		109.3%	122.9%
目標値 県民ホール	645,000	651,000	163,250
目標値 芸術劇場	175,000	183,000	191,000
目標達成率 県民ホール	101.4%	107.9%	122.6%
目標達成率 芸術劇場	113.8%	119.0%	140.1%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・提携・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

注：県民ホールは、平成29年度7月～平成30年3月まで改修工事のため全館休館

※ 原則は人数だが、施設の状態等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口等に常時用紙を備え、管理施設の利用者等に対して、簡便な方法で常時実施するアンケート	【県民ホール】 ・利用者について 有効回答数は8件であった。 「施設を利用した全体的な印象」、「施設・設備を利用した感想」、「職員の対応」、「事務手続き・料金」については大半が「満足」「どちらかといえば満足」や「良い」「どちらかといえば良い」との回答であることから、概ね評価していただいていることが分かる。 「今後の県民ホールの利用予定」の設問に対しては、「次の予定が決まっている」が50%、「検討中」が37%、「未定」が13%であった。
	(2) 詳細アンケート 年1回、時期を定めて、より詳細な質問項目のアンケートを、管理施設の利用者等へのアンケート用紙の配布及び管理施設ホームページにおいて実施し、結果を分析するアンケート	【芸術劇場】 ・利用者について 有効回答数は計3件であった。 「施設を利用した全体的な印象」、「利用した感想」「職員の対応」、「事務手続き・料金」については、「良い」、「どちらかといえば良い」が大半を占め、利用に関して概ね満足していただいていることがわかる。 ホームページについては、2件が見た、1件が見なかったと回答しており、今後の利用予定については、「検討中」「次の予定が決まっている」がそれぞれ1件ずつであった。 今回の芸術劇場の利用の決め手については「収容人数」、「舞台設備」が2件あり、「料金」、「立地条件」が1件ずつであった。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 今回、施設をご利用いただいた全体的な印象をお聞かせください。

実施した調査の配布方法 用紙配布 回収数/配布数 11 / 34 = 32.4%

配布(サンプル)対象 施設の貸館利用者（公演等の主催者）

		良い	どちらか といえば 良い	どちらか といえば 悪い	悪い	合計	満足、不満に回答があった場合 はその理由
サービス内容 の総合的評価 の回答数	県民ホール	7	1	0	0	8	
	芸術劇場	2	1	0	0	3	
回答率	県民ホール	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%		
	芸術劇場	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%		
前年度の 回答数	県民ホール	18	2	1	0	21	
	芸術劇場	3	0	0	0	3	
前年度回答 率	県民ホール	85.7%	9.5%	4.8%	0.0%		
	芸術劇場	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
回答率の 対前年度比		102.1%	131.3%	0.0%	0.0%		
		66.7%	0.0%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	<評価の目安> 収支差額の当初予算額：プラスの施設が該当 収支差額の決算額/収支差額の当初予算額の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～ 105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超える マイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位：千円)

県民ホール

		収入の状況				支出の状況	収支の状況		
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々 年度	当初 予算	604,304	252,000	241,927	備考のとおり	1,098,231	1,098,231	0	
	決算	604,304	247,139	237,119	備考のとおり	1,088,562	1,056,556	32,006	103.03%
前 年度	当初 予算	617,303	252,000	201,598	備考のとおり	1,070,901	1,070,901	0	
	決算	617,303	271,434	189,742	備考のとおり	1,078,479	1,053,516	24,963	102.37%
29 年度	当初 予算	565,936	99,350	78,894	備考のとおり	744,180	744,180	0	
	決算	565,936	105,926	86,813	備考のとおり	758,675	713,536	45,139	106.33%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

28年度 / 0 前年度 / 0 前々年度 / 0

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：86,514、立替収入：41,363、補助金等収入：44,000、寄付金収入：2,000、本部繰入金収入：1,050、特定資産取崩収入：67,000

(前々年度・決算) 事業収入：91,449、立替収入：25,559、補助金等収入：49,553、寄付金収入：2,118、雑収入：390、本部繰入金収入：1,050、特定資産取崩収入：67,000

(前年度・当初予算) 事業収入：66,585、立替収入：6,363、補助金等収入：109,300、負担金収入：17,000、寄付金収入：2,000、他事業繰入金収入：350

(前年度・決算) 事業収入：72,483、立替収入：8,622、補助金等収入：86,995、負担金収入：17,000、寄付金収入：3,000、雑収入：292、他事業繰入金収入：350、特定資産取崩収入：1,000

(29年度・当初予算) 事業収入：38,719、立替収入：6,625、補助金等収入：31,300、負担金収入：0、寄付金収入：1,900、他事業繰入金収入：350

(29年度・決算) 事業収入：48,900、立替収入：4,803、補助金等収入：29,362、負担金収入：200、寄付金収入：1,900、雑収入：298、他事業繰入金収入：350、特定資産取崩収入：1,000

・平成29年度7月～平成29年度3月まで、改修工事のため全面休館

芸術劇場

		収入の状況				支出の状況	収支の状況		
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	601,464	85,297	611,736	備考のとおり	1,298,497	1,298,497	0	
	決算	601,464	94,188	539,274	備考のとおり	1,234,926	1,234,910	16	100.00%
前年度	当初予算	600,363	92,000	465,196	備考のとおり	1,157,559	1,157,559	0	
	決算	600,363	136,422	339,824	備考のとおり	1,076,609	1,101,868	-25,259	97.71%
29年度	当初予算	600,363	165,160	484,138	備考のとおり	1,249,661	1,249,661	0	
	決算	600,363	165,914	483,711	備考のとおり	1,249,988	1,252,485	-2,497	99.80%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

29年度 / 0 前年度 / 0 前々年度 / 0

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：469,082、立替収入：6,191、補助金等収入：44,900、負担金収入：3,500、寄付金収入：2,000、特定資産取崩収入：86,063

(前々年度・決算) 事業収入：360,401、受託収入：892、立替収入：13,517、補助金等収入：48,133、負担金収入：25,572、寄付金収入：4,519、雑収入：177、特定資産取崩収入：86,063

(前年度・当初予算) 事業収入：363,209、立替収入：8,000、補助金等収入：50,425、寄付金収入：3,500、雑収入：3、他事業繰入金収入：2,059、特定資産取崩収入：38,000

(前年度・決算) 事業収入：229,059、立替収入：11,453、補助金等収入：52,287、負担金収入：844、寄付金収入：4,000、雑収入：1,382、他事業繰入金収入：2,799、特定資産取崩収入：38,000

(29年度・当初予算) 事業収入：402,716、立替収入：2,822、補助金等収入：50,000、寄付金収入：3,500、雑収入：100、他事業繰入金収入：1,000、特定資産取崩収入：24,000

(29年度・決算) 事業収入：389,264、受託収入：500、立替収入：9,725、補助金等収入：49,157、負担金収入：3,401、寄付金収入：3,500、雑収入：300、他事業繰入金：1,000、特定資産取崩収入：26,864

合計

(単位:千円)

		収入の状況				支出の状況	収支の状況		
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	1,205,768	337,297	853,663	備考のとおり	2,396,728	2,396,728	0	100.00%
	決算	1,205,768	341,327	776,393	備考のとおり	2,323,488	2,291,466	32,022	101.40%
前年度	当初予算	1,217,666	344,000	666,794	備考のとおり	2,228,460	2,228,460	0	100.00%
	決算	1,217,666	407,856	529,566	備考のとおり	2,155,088	2,155,384	-296	99.99%
29年度	当初予算	1,166,299	264,510	563,032	備考のとおり	1,993,841	1,993,841	0	100.00%
	決算	1,166,299	271,840	570,524	備考のとおり	2,008,663	1,966,021	42,642	102.17%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

28年度 / 0 前年度 / 0 前々年度 / 0

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 555,596、立替収入: 47,554、補助金等収入: 88,900、負担金収入: 3,500、寄付金収入: 4,000、本部繰入金収入: 1,050、特定資産取崩収入: 153,063

(前々年度・決算) 事業収入: 451,850、受託収入: 892、立替収入: 39,076、補助金等収入: 97,686、負担金収入: 25,572、寄付金収入: 6,637、雑収入: 567、本部繰入金収入: 1,050、特定資産取崩収入: 153,063

(前年度・当初予算) 事業収入: 429,794、立替収入: 14,363、補助金等収入: 159,725、負担金収入: 17,000、寄付金収入: 5,500、雑収入: 3、他事業繰入金収入: 2,409、特定資産取崩収入: 38,000

(前年度・決算) 事業収入: 301,542、立替収入: 20,075、補助金等収入: 139,282、負担金収入: 17,844、寄付金収入: 7,000、雑収入: 1,674、他事業繰入金収入: 3,149、特定資産取崩収入: 39,000

(29年度・当初予算) 事業収入: 441,435、立替収入: 9,447、補助金等収入: 81,300、負担金収入: 0、寄付金収入: 5,400、雑収入: 100、他事業繰入金収入: 1,350、特定資産取崩収入: 24,000

(29年度・決算) 事業収入: 438,164、受託収入: 500、立替収入: 14,528、補助金等収入: 78,519、負担金収入: 3,601、寄付金収入: 5,400、雑収入: 598、他事業繰入金収入: 1,350、特定資産取崩収入: 27,864

8. 苦情・要望等

県民ホール

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	文書	12 件	バリアフリーに関するもの（エレベーター、エスカレーター、スロープ等の設置、階段がきつい等）12件	大ホールについては上層階へは業務用エレベーターでの案内や、公演によっては3階席前方階とロビー階をエレベーター1機を占有し直通運転を行う案内を実施。
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	対面	2 件	<p>①職員通用口受付で近隣の住人より、改修工事の車両が通行の妨げになっているとの苦情があった。確認したところ、搬入ハッチ前に車両を停めて作業をしている最中で、その分道幅は狭くなっているものの、通行が困難という状況ではなかった。</p> <p>②通行中の男性より、水町通りの車道に設置してあるカラーコーンが、自転車の通行の妨げになるので撤去して欲しいとの苦情があった。</p>	<p>①ホールとしては、搬入等で車両を停める際には道路使用許可を取り、警備員を配置し、一般車両及び歩行者の通行の妨げにならないように配慮していることを職員より説明した。</p> <p>②加賀町警察署に相談の上、駐車場利用者の安全確保のため最低限必要な箇所を除き、カラーコーンを撤去した。</p>

芸術劇場

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	対面	1 件	①1Fアトリウムの「みんなのトイレ」を利用したが、利用後に水を流すボタンの位置が分かりにくかった。	①分かりやすい掲示方法を検討する。
		件		
職員対応	対面	1 件	①前傾姿勢を注意した案内係の対応が不適切であった。チケット代の返金などを求められた。	①案内係より状況説明と謝罪をし、ご納得いただいた。
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	対面	1 件	<p>①駅から劇場までの道案内がなく不親切。駅の出口に、何番口から出るという表示など出してほしい。</p> <p>②神奈川芸術劇場は、豪華なつくりであるのに対し、客は入っておらず、いつもがらだ。収入もなく、赤字運営なのではないか。県の管理運営体制について見直すべきではないか。</p> <p>③劇場裏手の自転車置場の段差に座って、喫煙しているレストラン従業員がいて不快だった。</p>	<p>①今後の広告掲出計画の参考とする。</p> <p>②県の運営ではなく指定管理者が管理していること、入場者数の概要、収入についての説明を行った。</p> <p>③店舗責任者に注意するとともに、事業本社に対しても併せて注意喚起を行った。</p>
	電話	1 件		
	文書	1 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
【県民ホール】 5月13日（土）	①神奈川県美術展委員会、神奈川県、公益財団法人神奈川芸術文化財団が開催している神奈川県美術展において、「平面立体部門」出品料7,000円（1点分）の徴収不足が判明した。 ②15日、指定管理者より文化課に連絡があり、原因の確認と対応を指示。 ③該当部門の出品者全員に電話により確認し、17日、出品者から申し出があり、21日に現金にて出品料を受領した。 翌年度以降からは、応募作品搬入時の対応や作業手順について見直す。 ④なし。 ⑤作品受付、現金收受時の確認不足。 ⑥あり。5月17日（水）
【県民ホール】 6月20日（火）	①正面エントランスの貸出し用車椅子がなくなっていることが判明。監視モニターにより、前日の公演時に来場者が持ち出したことが判明した。 ②発生が深夜のため、翌21日に電話にて連絡、22日に県職員が現地で確認。 ③返却されることを待ったが、返却がなかったため、7月11日加賀町署へ盗難届けを提出。車椅子は事務室で管理とし、申出制として当面对応。3月、車椅子背面に、県民ホール館内専用とプリントした布を縫い付け、持ち出し防止を図った。 ④なし。 ⑤県民ホール館内専用である大きな目印がなく、持ち出しされることに気づけなかったことが原因。 ⑥なし。
【県民ホール】 6月18日（日）	①第52回神奈川県美術展において平面作品の破損あり。審査終了後の作品移動の際に、作品の突起部分が接触して折れ曲がったと思われる。 ②当日、電話にて連絡。 ③保険適用範囲内の金額プラスお詫び金の支払い。弁護士を通じてこれ以上の対応をしない旨連絡。最終的に運送会社より保険金を支払うことで和解。今後は、応募要項に補償範囲を明記するとともに、出品規定についても見直しを検討。 ④出品者から保険適用内の金額プラスお詫び金では納得できないことの要望。8月21日（月）に出品者より作品補償に関する要望が指定管理者の弁護士を通じて送られてきた。9月27日（水）出品者より県展主催者の対応について不服の通知。 ⑤破損については、展示作業業者が作品移動時に十分な注意を怠ったことによる。 ⑥なし。
【芸術劇場】 11月17日（金）	①1階共用車路にて、出庫しようとした搬入トラックが入り口のシャッターと接触する事故が発生した。主催者の搬入トラックが出庫する際、合同施設の他の車両が共用車路から出庫し、その際リモコンでシャッターを閉じる操作をしたため、続いて出ようとしたところトラック上部が降りてきた入り口シャッターと接触した。シャッターとトラックに破損あり。 ②同日、現地で確認を行った。 ③合同施設における共用エリアでの安全確認の必要性を一層認識し、再発防止策として、共用部分の安全配慮通知を区分所有者、芸術劇場に通知し、今後は通知に基づき運用することとした。 ④問題の指摘やクレームについて トラックは確認しないでシャッターを下ろしたことが問題である主張し、区分所有者はトラックの前方不注意であると主張していた。 ⑤原因：共用車路の運用ルールが整備されていなかったことによる。 ⑥なし。
【芸術劇場】 1月15日（月）	①1月14日23時に公開した主催公演「三文オペラ」フォトコール（マスコミ向け公開舞台稽古）観劇モニター募集フォームにおいて、インターネット上のフォームに入力して応募してもらったところ、応募内容送信者が他の応募者の個人情報（名前、年齢、性別、メールアドレス、携帯番号、SNSのアカウント）を閲覧できる状態になっていたことが発覚した。 ②15日、電話での連絡にて確認。 ③翌15日の10時に、職員が応募者からの問合せメールにて流出があったことを知り、即時、応募内容が第三者に見られないよう設定を変更。非公開の設定に変更した時点までに申込みを受け付けていた16名の方に速やかに謝罪の連絡を行った。財団HP及び芸術劇場HPのニュース欄で事実を公表した。今後の対応策として、職員のダブルチェックを行なう、配信後の確認ができる時間帯に作業を行うことなど、個人情報の厳格な管理を行なうとともに、事故についてはすみやかに上司への報告を行なうことを徹底した。さらに、職員研修の実施等により、再発防止を図った。 ④なし。 ⑤担当の不注意及びダブルチェック体制をとっていなかったことによる。 ⑥平成30年1月15日（月）

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。

<神奈川県立音楽堂について>

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月3～4回	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有	指導・改善勧告等の内容
	無	

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1. 一体運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3館の役割、機能を踏まえて、各施設を運営する。 ・音楽分野と演劇分野、それぞれに芸術監督を置き、その指導のもと神奈川からの芸術文化の創造・発信を強化する。 ・県や関係機関と一体となって東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムを推進する。また、子ども・青少年に次世代へ文化芸術の豊かさや多様性を伝えていく。 ・3館一体で効率的かつ効果的な施設運営を行い、利用者サービスの改善と、利用率の維持・向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県民ホール、神奈川芸術劇場及び神奈川県立音楽堂の3館一体運営を象徴する合同プロジェクトとして、一柳慧（神奈川芸術文化財団芸術総監督）と白井晃（芸術劇場芸術監督）が主導・監修する「芸術監督プロジェクト」と「オープンシアター」を実施し、各館の特徴を生かした事業展開で県民に向けた文化芸術の普及啓発や新しい芸術との出会いを提示した。 ・「芸術監督プロジェクト」は、県立音楽堂を会場として開催し、絹糸等による音響装置と映像作品でホール空間を満たした斬新な芸術表現を実現した。 ・「オープンシアター」は、鑑賞機会の拡大や参加型企画を中心にすえた3館の企画群となった。<計4事業/5演目（9公演）・9企画（23回）・1展覧会（入場者数8,786人）> ・新規の取組みとして、3館別々に、人材育成事業としてのワークショップ、教育普及事業としてのアウトリーチ、鑑賞普及事業の関連企画としてのプレレクチャー等、個々の取組みとして分散していた情報を一元化できるポータルページを財団HPに設置した。 ・3館共通の広報営業業務として、情報誌「神奈川芸術プレス」を発行し、県民ホール、芸術劇場及び音楽堂の公演情報、アーティスト情報などを取り上げるとともに、県域の文化情報を紹介した。また、インターネットを活用した情報提供としてホームページ・SNSの運営も行った。 	

<p>2. 適切な管理運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料収入増及び経費の節減に努めるとともに、サービスの向上に取り組むなど適切な管理運営に努める。 ・また、防犯、防災対策、安全対策にも取り組んでいく。 	<p><実施状況></p> <p>【利用料収入増及び経費の節減の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の利用率は92.6%と昨年度に比べて増加し、高い利用率を維持できている。入場者数は過去5年間で最高値となった昨年度を上回り、184,821人となった。関内ホール等近隣他館の工事休館などを積極的に受け入れ、また、アマチュアの新規利用者の増加も要因である。 <p>【サービス向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休館日の臨時開館、午前9時以前の利用、午後9時以降の利用を行う等、利便性に配慮した柔軟な対応を行った。 ・開館から63年が経過し、老朽化という課題を抱えている施設・設備面では、利用者の安全を第一に、保守点検、修繕、工事を行ったほか、予防保全に努めた。また、平成30年4月から約1年間にわたる県による改修工事に向け、各種事前調査に協力した。利用者向けに休館についての広報等のフォローアップを行った。 ・委託先との定期的なミーティングにより情報共有をしながら施設の利用状況に応じた設備点検や清掃などを行い、来館者へのサービス向上、業務内容改善に取り組んだ。 ・アマチュアの利用者には施設の特徴を十分に説明し、利用方法を丁寧に説明することや、下見・打合せを丁寧に実施することでトラブルの回避に努めた。 ・年間で必要な設備点検は極力空き日を利用して実施し、利用希望者の日程を確保するなど、柔軟な利用調整に努めた。 ・来館者、利用者アンケートを常時実施、ホームページ上での「お問い合わせ」コーナーの設置等、要望やクレームに細やかかつ迅速に対応し、苦情原因の是正及びその予防に努めている。 ・若い世代の来館機会が増えるよう、多くの主催公演において託児サービスを実施し、幼児向けのイベント等では、仮設授乳室の設置も行っている。 	
	<p>【防犯、防災対策、安全対策への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者の進入防止や事故防止に備え、防犯カメラによる確認や、夜間の警備員巡回、職員および委託業者等を含めたスタッフの連携確認等を強化し、防犯対策に取り組んだ。 ・様々な災害を想定した防災訓練を複数回実施したほか、「災害対応マニュアル」の見直し・点検を行い、防火防災対策を強化して取り組み、本年は消防音楽隊の協力を得て、一般の来場者も参加した避難訓練コンサートを実施した。 ・事前打ち合わせ、当日打ち合わせ等において、施設職員と主催者による公演中における避難誘導體制の確認を徹底し、有事における来館者の安全確保に取り組んだ。また、舞台技術スタッフの指導により、舞台上の安全確保にも利用者と連携して取り組んだ。 	

<p>3. 自主的な企画事業について</p> <p>●芸術文化創造振興事業 「木のホール」音楽堂で聴く上質な公演</p> <p>○音楽に対する新鮮で自由な発想の風を吹き込みながら、幅広い人々が上質な音楽と出会い、心から楽しめる企画・公演を制作します。</p> <p>○木のホールのクリアな音響と親密な空間を生かし、クラシック音楽はもちろんのこと、日本やアジアの伝統音楽も視野に入れた、国内外の演奏家による「音楽堂でしか聴けない」企画性に富んだラインナップを提供します。</p>	<p>・昨年度に引き続き音楽堂の音響と空間を生かし、県民の期待に応える上質な音楽公演の実施や、子ども・青少年を中心とした音楽体験の提供に努めた。</p> <p>・本年がモンテヴェルディ生誕450年であったことから、特別演奏会としてモンテヴェルディの「聖と俗」を対照させる2公演を実施。イタリアを代表する古楽演奏団体「コンチェルト・イタリアーノ」による宗教曲「聖母マリアの夕べの祈り」では古楽の色彩の豊かさを、また、日本を代表する古楽演奏団体「バッハ・コレギウム・ジャパン」によるオペラ「ポッペアの戴冠」を注目の若手指揮者や気鋭の演出家らの手による演奏会形式で上演し、古楽の新鮮な魅力を発信した。</p> <p>・伝統音楽の魅力を紹介するシリーズでは「聲明」を取り上げ、古典聲明と若手作曲家による「新作聲明」で構成。僧侶たちの声のみによる「音楽舞台作品」として上演し、聴衆に稀有な音楽体験を提供した。</p> <p>【主催事業】 [9事業/9演目9公演・5企画5回 入場者数7,438人]</p> <p>【共催事業】 [16事業/17演目32公演 入場者数30,125人]</p>	<p>○目標を達成したか 主な実績としてあげた個々の公演では芸術総監督が方針とする革新性や他ジャンルの芸術の交流、企画としての積極性が達成できている。</p> <p>しかし、館全体のラインナップとしてみたときに、「神奈川県立音楽堂」というブランドが求めるプレゼンス、発信力が十分発揮できているとはいいがたく、改善の余地がある。</p> <p>○達成できた/できなかった要因の分析</p> <p>1. 館のラインナップとしての表現力をもつだけの年間回数、企画間の関連性が保てていない。</p> <p>(例：1-①：実績例示含め4回/年のみ) バラエティに富んではいるのだが、子ども向けからクラシック、ポピュラーまで網羅する地方多目的公共ホール型の年間ラインナップになっており、「音楽ホール」としての専門性を訴求するには類似公演の回数が足りない。</p>
--	---	---

<p>●芸術文化鑑賞普及事業 鑑賞普及事業では、これまで県民ホールと芸術劇場が実施してきた「オープンシアター」に平成28年度から参加し、今回2度目となる。音楽堂では建築の魅力も紹介しつつ、音楽のワークショップも交えた企画を実施する。 「夏休みオーケストラ！」は、指揮者に三ツ橋敬子を新たに迎え、コンセプトは維持した上で企画内容に新風を吹き込む。50年以上継続されてきた「メサイア」では、「未来プロジェクト」を継続し、次世代への橋渡しを目指す。</p>	<p>子ども・青少年への教育的・普及的なプログラムは、長期の取組みで一層効果が高まるため、今期指定管理期間（第3期）でもこの方向性を堅持し、これまで培ってきたノウハウを生かした新たな音楽体験プログラムの開発と実践に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時に、子ども・青少年を取り巻く大人たちの人材育成にも目を向けた取組みとして、三館合同企画「オープンシアター2017」において、平成28年度に引き続き、建築の魅力を紹介するとともに、音楽を身近に体験する企画を揃えて実施した。近隣の小学校児童が来館する「建築見学会」と当日受付・小学生以下無料・出入り自由という1日イベントとを組み合わせ、後者では敷居の低さもあって未就学児を含んだ多くの来館者で賑わい、催し物全体で地域に開かれたホールを実現した。 ・指揮者に気鋭の三ツ橋敬子を迎え2年目となる「新☆夏休みオーケストラ！」では、プリティッシュ・カウンシルとの連携による作曲ワークショップや、小中学生の子ども達による職業体験「ジュニア・スタッフ」、指揮者三ツ橋と参加者の子ども、その保護者が語り合うワークショップ等、よりコミュニケーションと参加に重点を置いた企画内容となった。 <p>主催事業 [4事業/4演目6公演・23企画34回 入場者数4,217人]</p>	
<p>●地域との連携 特別支援学校や小学校等へのアウトリーチ事業は手法を研究・発展させながら継続し、音楽堂のミッションの1つとして掲げている「子どもたちへの音楽体験の提供」に引き続き取り組んでいく。</p>	<p>音楽堂が長年培ってきた地域の音楽団体やアマチュアの合唱団体等との連携・協力を引き続き行い、その活動をサポートするにとどまらず、時に応じて協働で新企画を生みだし、県民の自主的な音楽活動の活性化に寄与するなど、地域に開かれた公立文化施設としての活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒例の「メサイア」では、高校生が合唱に参加する「未来プロジェクト」を継続した。 ・特別支援学校や小学校等へのアウトリーチ事業は、受入れ先の要望に沿って、児童生徒の創造性を育てるようプログラムを工夫して実施している。今年度は初めて館の空き日を利用して、特別支援学校の生徒にバスで来館してもらうことを試行。「コンサートホールでの音楽鑑賞体験」が実現した。 <p>※芸術普及鑑賞事業に事業数、入場者数含む。</p> <p>●音楽堂・建築の魅力再発見プロジェクト 戦後モダニズム建築を代表する施設としての建築的価値に着目し、その魅力を発信する企画三館合同企画「オープンシアター2017」では、平成28年度に引き続き、建築の魅力を紹介するとともに、音楽を身近に体験する企画を揃えて実施した。近隣の小学校児童が来館する「建築見学会」と当日受付・小学生以下無料・出入り自由という1日イベントとを組み合わせ、後者では敷居の低さもあって未就学児を含む多くの来館者で賑わい、催し物全体で地域に開かれたホールを実現した。</p> <p>※芸術普及鑑賞事業に事業数、入場者数を含む。</p>	

<p>4. 事業の収支バランスの安定を図る取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料以外の収入確保の取組みを図る。 	<p>広報宣伝・営業、チケット販売等の強化により事業収入の確保に努めるとともに、外部資金の獲得にも努め、収支バランスの安定を図った。</p> <p>【平成29年度獲得実績】</p> <p>文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」 ≪活動別支援事業≫ 2件 22,300千円</p> <p>合計 22,300千円</p>	
--	---	--

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス	自主事業公演等開催時に、来館者へのサービスとして、ホワイエで県内福祉作業所の焼き菓子や飲み物等の販売を行った。

5. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	169,143	174,871	184,821
対前年度比		103.4%	105.7%
目標値	152,700	166,000	166,000
目標達成率	110.8%	105.3%	111.3%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・提携・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイ ナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳			支出	収支差額
前々 年度	当初 予算	181,192	36,515	54,200	備考のとおり	271,907	271,907	0	
	決算	181,192	36,563	54,371	備考のとおり	272,126	270,922	1,204	100.44%
前年 度	当初 予算	181,334	36,000	51,405	備考のとおり	268,739	268,739	0	
	決算	181,334	37,549	56,404	備考のとおり	275,287	269,831	5,456	102.02%
29 年度	当初 予算	181,334	36,000	67,056	備考のとおり	284,390	284,390	0	
	決算	181,334	37,566	73,894	備考のとおり	292,794	287,429	5,365	101.87%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

29年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：37,040、受託収入：360、補助金等収入：10,600、寄付金収入：2,500、本部繰入金収入：700、特定資産取崩収入：3,000

(前々年度・決算) 事業収入：36,395、受託収入：248、立替収入：190、補助金等収入：7,869、負担金収入：155、寄付金収入：3,653、雑収入：101、本部繰入金収入：700、特定資産取崩収入：5,060

(前年度・当初予算) 事業収入：39,545、補助金等収入：10,500、受託収入：360、寄付金収入：1,000

(前年度・決算) 事業収入：38,527、立替収入：175、補助金等収入：13,650、受託収入：310、負担金収入：35、寄付金収入：1,660、雑収入：48、他事行繰入金収入：2,000

(29年度・当初予算) 事業収入：38,400、受託収入：360、補助金等収入：19,966、寄付金収入：1,000、他事行繰入金収入：7,330

(29年度・決算) 事業収入：42,089、受託収入：310、立替収入：144、補助金等収入：22,300、寄付金収入：1,666、雑収入：55、他事行繰入金収入：7,330

8. 苦情・要望等

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	文書 19 件	<ul style="list-style-type: none"> ・シートの間隔が他のホールに比べ狭い。(7件) ・エレベータ、エスカレータ設置希望(4件) ・公演中座席が動いてしまった。その席は、可動席と説明はあったが、動かないように対応をしてほしい。 ・トイレ混雑・数が少ない。(2件) ・搬入口、搬入方法の改善(2件) ・空調音が気になる。 ・舞台袖が狭い。(2件) 	改修等に向けて参考とする。
職員対応			
事業内容	文書 1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・客席照明がもう少し明るして頂けた方が良かった。歌詞対訳が見えにくかった。 	今後の事業に向けて参考とする。
その他			
		件	

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
なし	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。